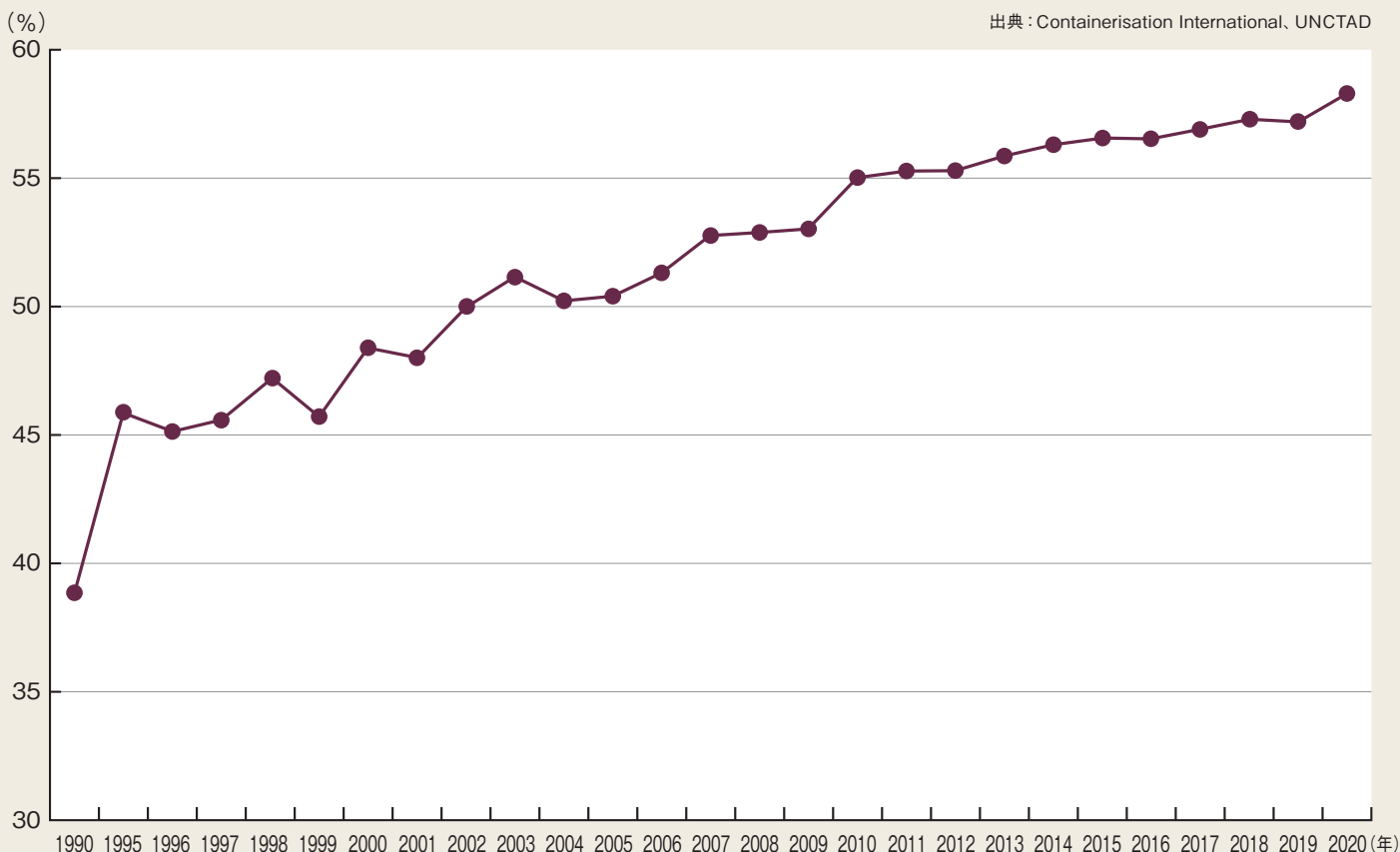


1 アジア各国の世界に占めるコンテナ取扱量のシェア

アジア各国の世界に占めるコンテナ取扱量(TEU)のシェアは1990年には4割を切っていたが、その後拡大し続け、2020年には58.3%となった。



(注) ①中国、シンガポール、香港、日本、韓国、マレーシア、台湾、インド、インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピン、スリランカ、パキスタン、バングラディシュ、ミャンマー、カンボジアのデータ。
②取扱量はContainerisation International推定値。

2 コンテナ取扱量の上位を占めるアジアの港湾

中国を中心にアジア諸国発着のコンテナ貨物が増加したため、世界のコンテナ取扱量上位10港のうち、9港がアジアの港湾であり、そのうち7港を中国の港湾が占めている。

出典：Lloyd's List One Hundred Ports 2022, Containerisation International

港名(国名)	取扱量の順位									2021年の取扱量(千TEU)
	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	
上海(中国)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	47,030
シンガポール(シンガポール)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	37,470
寧波(中国)	6	5	4	4	4	3	3	3	3	31,070
深圳(中国)	3	3	3	3	3	4	4	4	4	28,768
広州(中国)	8	8	7	7	7	5	5	5	5	24,180
青島(中国)	7	7	8	8	8	8	7	6	6	23,710
釜山(韓国)	5	6	6	5	6	6	6	7	7	22,706
天津(中国)	10	10	10	10	10	9	9	8	8	20,269
香港(中国)	4	4	5	6	5	7	8	9	9	17,798
ロッテルダム(オランダ)	11	11	11	12	11	11	10	10	10	15,300

(注)取扱量はThe Top 100 Ports in 2020確定値。